東北派遣を終えて・・・

福岡県県土整備部河川課　的野　直矢

１．はじめに

私は、平成２６年度１年間、自治法派遣により宮城県仙台土木事務所で山元町の河川災害復旧工事を担当させて頂きました。東日本大震災からもうまもなく５年の月日が経過し、マスコミでの露出も減り風化が進んでおります。しかし、同じ過ちを繰り返さないためにも、この震災から学んだ教訓というものを後世に伝えていかないといけないと考えております。

今回は、福建の会報を書かせて頂くという貴重な場を頂きましたので、現地での災害復旧について書かせて頂きたいと思います。また東北で、ある縁をきっかけに宮城県仙台市から岩手県野田村まで、何度か沿岸部を回らせて頂く機会がありました。その道中で、たくさんの住民の方とお話しし、感じたこと学んだことについても後半で書かせて頂きます。

２．担当した河川災害復旧工事について

私が配属されたのは宮城県仙台土木事務所の河川砂防第４班という部署でした。この班では主に福島県との県境の山元町と岩沼市を担当しており、福岡県から４名、愛媛県から２名の派遣職員が配属されました。私は山元町（図 2-１）の坂元川・戸花川の災害復旧を担当しました。

山元町では、2011 年の東日本大震災により、死者６３６名、家屋全壊 2217 棟（うち流出 1013 棟）、浸水面積 24 平方キロメートル（総面積の 37.2%）の被害がありました。（山元町ホームページより）

図-2-1　山元町箇所図

図-2-2　平成 26 年度 4 月の山元町

私が、最初に山元町を訪れた平成 26 年 4 月、瓦礫は片づけられていましたが、図 2-2 のようにＪＲ常磐線の線路や防潮水門が当時のまま残されておりました。防潮水門の操作室も津波により被災していたことから、当時とても高い津波が来たことが推測できました。

山元町の災害復旧工事の大きな特徴の一つが、ＪＲ常磐線を内陸に移設し、旧ＪＲ常磐線跡地を盛土し県道とすることです（図 2-3 参照）。将来津波が起こり、防潮堤を波が越えてきたときに盛土道路（県道）が第２線堤を担うという計画です。これは、東日本大震災で仙台東部道路（盛土道路）が津波を抑制したという教訓が生かされた計画になっています。

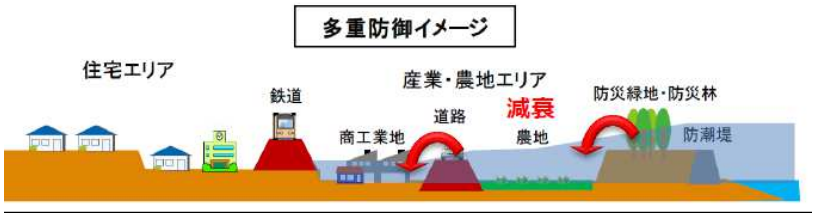

図-2-3 多重防御イメージ図（宮城県 HP より）

私達福岡県チームが担当したのは、主に防潮堤から第２線堤の県道の間の河川堤防の復旧工事の発注、現場監督業務でした。赴任して数か月は、ひたすら設計書の作成に励みました。採用４年目での派遣ということもあり、これまでに経験したことのない業種、金額の工事の積算に悪戦苦闘の毎日でした。そして、秋ごろから受注業者が決まりだし、現場監督業務も始まりました。

図-2-4 坂元川現場写真

現場に入って、もっとも苦労したことはヤードの確保です。図 -2-4 の写真でもお分かりいただけるかと思いますが、現地は瓦礫が撤去され、あたり一面平地で、一見するとヤードはいくらでもあるように思われます。しかし、国の防潮堤工事、林野庁の防潮林工事、町の圃場整備や防災集団移転に伴う工事等一斉に工事が行われたため、土砂の仮置き場やブロックの仮置き場をなかなか確保できなかったのです。縦割りの行政にあっては、あらゆる面で融通が利かず大変苦労しました。今後、復旧が進み災害復旧工事が完了した際には、それで終わりとするのではなく、災害復旧の際に課題となったことを抽出し、議論し、改善していくことが重要であると感じました。

３．東北の沿岸部を回ってみて感じたこと

ここからは、休日に東北各地をまわって感じたことについて書かせて頂きます。休日は東北でしかできないこと、東北にいるからこそできることにできるだけ時間を割きました。さまざまな御縁がきっかけで地元東北の方々と出会うことができ、大変お世話になりまし

た。その中でも、あるご縁で宮城県石巻→南三陸→気仙沼→岩手県陸前高田→大船渡→釜石→大槌→山田→宮古→田野畑→普代→野田村と東北沿岸部を車で縦断し、各地の方々とお話しさせて頂いた貴重な経験が印象に残りました。その際地元の方々が、口をそろえておっしゃっていたのが、日ごろの備えが大切ということでした。

近年、地震、火山の噴火、豪雨等、全国各地で災害が相次いでいます。私たちの住む福岡県においても、西方沖地震や九州北部豪雨が発生しています。もしもの時に備え、準備しておくことがとても重要だと感じました。

図-3-1　自助行動啓発マニュアル

東日本大震災の時には、ガソリンが不足し休日にはガソリンスタンドでガソリンを入れるのに何時間も並んだこと、避難所で食料や水は手に入ったが、持病の薬がなかなか手に入らず困ったことなどをお聞きしました。私も東北から帰県し、自分の命は自分で守る「自助」の重要性を感じ、家にも水を常備する、ガソリンはこまめに入れる等の対策をするよう、心がけるようになりました。

私が現在勤務している福岡県県土整備部河川課では、砂防課と共同で災害のメカニズムや前兆現象、情報収集手段、備蓄品リスト等をまとめた自助行動啓発マニュアル（図-3-1）と簡易版のパンフレットを作成し配布し、福岡県のホームページでも公表しております。また、宮城県では３．１１伝承・減災プロジェクトを立ち上げ、先の震災を後世に伝えていく取り組みを行っております。こちらも宮城県のホームページに掲載してあります。是非ご覧いただければと思います。

最後になりますが、実際に現地を回って地元の方とお話しをさせて頂く中で、この震災は絶対に忘れてはならないなと感じました。そして過ちを繰り返さないためにも、東北で学んだことを生かし、行政職員として県民の方々の安心安全に関わっていきたいと思います。また、この派遣期間でお世話になった現地の方々、宮城県庁の方々、各地方から派遣で来られていた派遣職員の方々との御縁を大切に、これからも東北に足を運び続けます。

図-3-2　南三陸町かさ上げ工事１

図-3-3　南三陸町かさ上げ工事２

図-3-4　南三陸町、電車運休区間はバスが運行され、線路だった箇所を舗装し運行している箇所もありました。

図-3-5　気仙沼市の様子。

図-3-6　陸前高田市の奇跡の一本松

図-3-7　陸前高田市のベルトコンベヤ、発破の瞬間

図-3-8　山田町で頂いたラーメン

図-3-9　お世話になった仙台土木事務所の皆様